

熊谷市における水田でのねぎ栽培安定化

熊谷市北部は秋冬ねぎの産地ですが、夏ねぎにも取り組み周年栽培により作付面積拡大及び収益向上を目指しています。しかし、連作による難防除病害が多発しているため、輪作体系を導入し、周年出荷の安定化を図っている事例を紹介します。

【ねぎの周年栽培の安定化のポイント】

○栽培のポイント

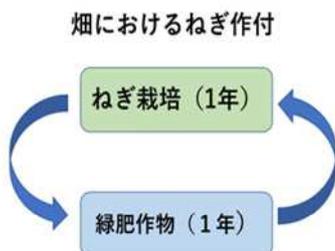
- ・ねぎ苗は自家育苗で、生育日数を90日程度確保ししっかりとした苗を育てる
- ・出荷時にA品を単位面積あたりいかに多く出荷できるか考慮して株間・畝間を調整
- ・追肥は生育の様子を見ながら行う
- ・特に最初の土寄せに注意
- ・病虫害防除は天候を予想して実施

○連作障害を回避する輪作体系の導入

- ・水田2作+ねぎ1作のローテーションの実施により連作によるねぎの病害を回避
- ・畑地は緑肥（ソルゴー、麦類）を間作に導入

○水田排水対策の実施

- ・新起こし後、サブソイラーを施工する（ほ場の短辺方向に施工）
- ・隣接水田との間に明きよの設置（額縁状）



経営体名 田沼 唯利

経営面積 水田 2.6ha 畑 2ha
(秋冬 1ha 夏 0.5ha)

労働力 本人 従業員 2人 計 3名

機械装備 機械化一貫体系

白ねぎ自動移植機 ねぎ収穫機

長ねぎ用半自動根切り皮剥き機

